

# 特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 29

## RUBeC 演習

大和 勇 弥  
Yuya YAMATO

数理情報学専攻修士課程 1年

### 1. はじめに

私は、2018年8月18日から9月3日までの期間にアメリカのカリフォルニア州において、RUBeC演習に参加しました。このRUBeC演習では、パークレーにあるRyukoku University Berkeley Centerという施設で、テクニカルライティングと英語プレゼンテーションの学習を行い、それに加えて現地の企業と大学を訪問しました。また滞在中は、ホームステイをしました。

### 2. 授業

授業は水曜を除く月曜から金曜にありました。午前中にテクニカルライティングがあって、お昼ごはんを食べてから、午後に英語プレゼンテーションの授業がありました。どちらの授業もアクティブラーニングで主体性を求められるので、最初は戸惑ったり焦ったりしてうまく話せないこともありました。終盤には慣れて少し発表して楽しく授業を受けることができました。

#### 2.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、主に文の構成について学びました。最終到達地点は、自分の卒業論文のアブストラクトの英訳を作成し、それについて説明をして質疑応答を行うことでした。テクニカルライティングの先生はミッシェルという女性の先生で、難しい問題を発表した人は、チョコレートがもらえました。この授業でもっとも苦労したことは、冠詞です。「a/an」と「the」を使うときの違い、さらに何もつけない場合と3つの区別で、大雑把には理解していたつもりでしたが、きちんと理解できていなかったことを痛感しました。基本的には、特

定できるものには「the」を用いて、それ以外で単数形なら「a/an」を用いて、それ以外は付けません。これらの違いを理解することが難しかったです。

#### 2.2 英語プレゼンテーション

午後の英語プレゼンテーションの授業では、英語のアクセントやイントネーションを中心に学びました。この授業の最後には、実際に6枚のスライドで6分間、英語でプレゼンテーションを行いました。



図1 英語でのプレゼンテーションの様子

発表中、最後のスライドで突然スクリーンが真っ暗になりました。そのときは焦りましたが、最後はスライド無しで無事発表を終えることができました。英語プレゼンテーションの先生はデイビッドという先生で授業がとても楽しく、さすがプレゼンテーションの先生だと感じました。この授業でもっとも苦労したことは、ニューラルネットワークのニューの発音です。どうしても上手く言えなくて、何度も先生に聞いて繰り返し発音の練習したことは忘れられないと思います。

### 3. 企業・大学訪問

授業のない水曜日には、企業と大学を訪問しました。1週目には、電子計測器などを製造している企業とワイン工場を訪問し、2週目には、カリフォルニア大学のデビス校を訪問しました。

### 3.1 企業訪問

企業訪問の1つ目に、Keysight Technologies を訪問しました。技術的なことは、あまりわかりませんでしたが、会社の方針などに感激しました。この会社の方針の1つに open door policy という方針があります。それは、直属の上司だけでなく誰にでも相談することができるというものです。初めて聞いた名前でしたが、説明を聞いて素晴らしい方針だと思います。言葉のそのままの意味で実際に重役の部屋の扉が開いていることには、とても驚きました。2つ目に Korbel というワイン工場を訪問し、シャンパンの製造過程や試飲をしました。

### 3.2 大学訪問

大学訪問では、カリフォルニア大学デイビス校を訪問しました。まず、大学内を紹介していただきながら少し歩いてから、3人の大学教授の方々からさまざまな話をさせていただきました。その中でもっとも驚いたことは、大学院には1つの学科では解決できないような問題に取り組むグラジュエイトグループという組織を設けていることです。このグループでは、様々な学科の教授から学ぶことで、問題解決に必要な知識や技術を習得することができます。これを紹介してくださった教授の方が「研究はリアルライフに直結した研究でなければならない」と話してくださったことをよく覚えています。

## 4. ホームステイ

ホームステイでは、ゴールドディング夫婦にお世話になりました。特にホストファザーのグレッグはと



図2 共にホームステイした仲間とグレッグ(ホストファザー)とベイブ(ペット)

ても優しくて食事の時などいろいろな話をしてくれました。話を聞いていても理解できるのは半分程度で聞き取れないことに少しストレスを感じたこともあります。また、聞いてばかりだったので、もっとこちらからも話せば良かったと少し後悔もしています。最後の土曜日には、私たちの観光のために朝5時に朝食を作ってくれたことには、とても驚きました。ホストファミリーの2人には、とても感謝しています。

## 5. おわりに

この RUBeC 演習では、日本と異なる環境で様々な苦勞をしました。もともと英語が苦手だった私にとっては、英語で話すということが何よりも難しかったです。しかし、伝えようとすれば伝わるということもわかりました。これらの経験を糧にして、英語だけでなく様々なことに挑戦していきたいと思えます。